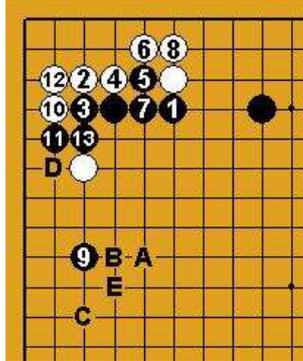


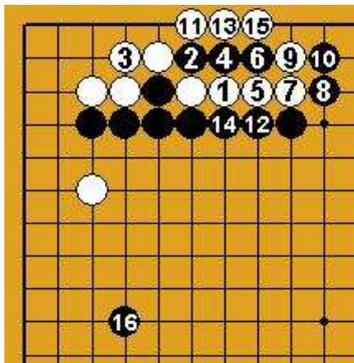
ケイマ両ガカリ9



基本図 10

基本図 10 がフリツギ定石の基本的なものです。まず

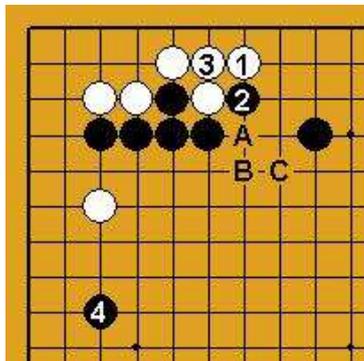
⑧カッツギはこの一手です。



変化図 10-1

これを変化図 10-1 の①横ノビと欲張るのは②以下の

の常用の手筋でピッタリしめつけられます。



変化図 10-2

また変化図 10-2 の①カケツギも②③と換わる

だけで、カッツギの場合の白 A ハネ黒 B ハネ白 C

ハネダシの有力な手段が失われるので悪い。基本

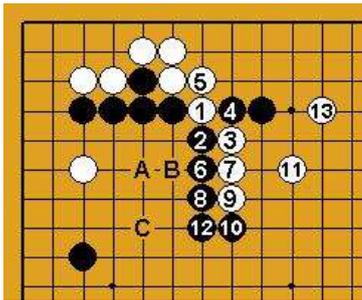
図 10 に戻って⑨でハサム位置も神経を使うところ

です。本図の低い⑨ですと A ポーシがあります。

一路高い B ですと C とカカられて次に D を見

られます。E と広くハサムのはハネツガず直ぐ F と

動き出してくるかもしれません。周囲の状況を見て決めるしかありませんが、本図の低い⑨が最も普通です。



変化図 10 - 3

さて⑩ハネツギでは変化図 10 - 3 の①②③とこちらをハネダシてくる変化もあります。ここで要注意があります。⑥でシチョウがよくて③の下を力かえてはいけません。その左キリチガ工がこういう場合の常用手段で、黒潰れてしまいます。ご自分で確かめてみてください。⑦で ABC と動き出してくるのは場合の手です。⑩で単に⑫とノビで⑪の時上辺の二子を動き出すのは右上隅の配置次第です。本図は⑥までが定石であとは周囲の状況で進行します。⑥さえ間違わなければ黒の不利は考えられません。